



《事務事業の手段と活動指標》【18】

事務事業を構成する細事業	手段(細事業の具体的内容)	活動指標	単位	H23実績	H24実績	H25実績	H26計画
① 岱明コミュニティセンター指定管理業務	指定管理者による施設の管理運営を行う。	開館日数	日	261	312	308	315
② 岱明コミュニティセンター維持管理業務	指定管理者との協定に基づき、施設の改修を行う。	修繕件数	件	0	1	2	0
③ 岱明コミュニティセンター屋根改修事業	センターの屋根の改修を行う。	修繕件数	件			1	
④							
⑤							

《事務事業の成果》【19】

成果指標(意図の数値化)	計算方法又は説明	単位	H23目標	H24目標	H25目標	H26目標
			H23実績	H24実績	H25実績	H26実績
1 潮湯及び休憩室利用者数	潮湯及び休憩室利用者の延べ人数	人	24,000	19,000	19,000	19,000
			19,118	19,542	18,346	
2 宿泊施設利用者数	宿泊した利用者の延べ人数	人		300	700	900
				296	737	

《事務事業の評価》

評価項目	評価の視点	評価	評価の説明	
妥当性 (判定) A	実施主体の妥当性【20】	市が実施すべき事業か。また、民間やNPO等他の団体では実施できない事業か。	指定管理がなくなると、建物の劣化が進むことで閉館に追い込まれる可能性もあり、市民の健康増進の妨げになる。	
	目的の妥当性【21】	税金を使って達成する目的か。また、役割が薄れていないか。		
	廃止・休止の影響【22】	事業を止めた場合、受益者に不利益が生じる等の影響があるか。		
有効性 (判定) C	目標の達成度【23】	成果指標の目標値は達成できたか。		宿泊施設の利用促進や周辺施設との連携を図る。
	成果向上の余地【24】	成果がもっと上がる余地はないか。		
	上位施策への貢献度【25】	上位施策の目的達成に貢献しているか。		
効率性 (判定) A	コスト低減の余地【26】	コストの低減について、これ以上検討の余地はないか。	余剰の活用や削減の検討を行う。	
	民間の活用の余地【27】	民間委託など民間活力の活用について、これ以上検討の余地はないか。		
	執行方法改善の余地【28】	事務事業の執行上、簡素化又は改善できるプロセスはないか。		
	事業統合の余地【29】	類似する他の事務事業との統合について、これ以上検討の余地はないか。		
公平性	受益者負担の余地【30】	受益者負担について、これ以上検討の余地はないか。また、対象、負担額等は適切か。		余剰の活用や削減の検討を行う。

《今後の方向性と改善》

今後の方向性【31】	<input type="checkbox"/> 拡充して継続 <input type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 縮小を検討 <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討 <input checked="" type="checkbox"/> 細事業の効率化【 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 民間活用 <input type="checkbox"/> 他事業と統合 <input type="checkbox"/> 廃止 】
判断理由及び見直し・改善の具体的内容	今後も隣接する「磯の里」との連携を図り、利用者が増えるよう継続的な管理運営を行う。
昨年からの見直し・改善状況【32】	特になし

■評価責任者記入欄■

評価責任者(課長)の所見【33】	宿泊機能を併設した事により、隣接する「磯の里」との連携を図り、利用者の利便性に配慮した効果的な運営を図る。	評価責任者 松岡 康吉
------------------	---	----------------